

http://www.minamih.net/



10・6・19 (土)
南NEWS NO13

「ウブントウ」

…今、南アフリカでは「ウブントウ」(人間性)についてよく語られているそうです。“人間は一人では人でなく、他者を通して人になる”意味を含むというウブントウ。サッカーの精神に通じる言葉かもしれません。…という文章を新聞のコラムで読みました。

いい言葉ですね。自分がしている授業を思い出しました。…人間が生まれたときはカタカナの動物“ヒト”で自分が生きることのみ懸命です。それが、母親や周囲の人々の優しさや愛情によって育てられ、様々な交流の中で漢字の“人”になるのです。…という授業をいろいろな学年でしています。“漢字の成り立ちを通して“人”から“人間”になるために何が必要なのかを考えさせ、“なぜ学ぶのか”を問う授業をして

いるのです。低学年の子も楽しい授業だと言ってくれます。

南の松の木の下でも時々同じことをしています。

拓殖大学杯 (3年生) 2010年6月6日 (於: 拓殖大学サッカー場)

対八王子七小サッカークラブ 0対6 (前半0対3) 得点者なし

今日は「技を5回以上」「スペースへのドリブル」をチームのためとしてトーナメント初戦にいどみました。

前半、立ち上がりは工藤君が気をはくも攻められる時間帯が続きます。その間に後方から五島君がドリブルで仕掛けますがゴール前までは至らず一進一退。ゴールキーパーの永末君も左からの鋭いシュートを止めたり再三のピンチをしのぎますが、5分、スローインから相手中央に渡ったボールを正面でシュートされ、とうとう得点されてしまいます。その後、斉藤君も右サイドを駆け上がる高速ドリブルでチャンスメイクしますが、相手の早め早めのパス回しに8人制という事もあり、南のダンゴサッカーに持ち込むことが出来ません。キーパーの後方に転々と転がるボール。決定的な場面を救ってくれたのは、4月に南八の仲間に加わった白鳥君でした(サンキュ)。福岡君は左サイドから、井上さんは右サイドから中央へと切り込むドリブルを見せますが、どうしてもシュートで終われない。13分、逆に相手にペナルティエリアに持ち込まれ、うばい取ったボールをキーパーに戻したところバックパスの判定。間接フリーキックから2点目を取られてしまいます。その1分後、気持ちが立ち直らない中3点目もうばわれてしまいました。

「もっと積極的に！」とコーチからのゲキを背に、総入れ替えて後半戦に望みます。立ち上がりから皆元気よくボールが追えており、望月君も持ち前の運動量で相手選手に当たります。しかしながら相手もさらにパスサッカーに力を入れた布じんて対抗。2分、味方のキックミスから4点目をきってしまいます。体格の大きな相手にもひるまず高橋君が中央突破、古賀君が後方から右サイドの駆け上がりに鋭い切り返し、鈴木君が中央からと、相手選手もファウルで止めざるを得ないシーンが見られます。しかしそのがんばりもパス一発でゴール前。ゴールキーパー杉本君もたえ続けますが5点目を押し込まれてしまいます。給水後も気

持ちを切らすことなく、古賀君の鋭いターンからの攻め上がりを見せますが、9分、相手右サイドからのセンタリングを中央で合わされ失点。村山君も守備に追われて走り回り、山本君の右サイドからのランウイズザボールも相手選手に体ごと止められ、攻撃の形が作れないまま時間がすぎタイムアップとなりました。

得点差だけを見れば大きな差、「自分たちは弱いのではないか？」と悩んでしまう子もいるかも知れません。しかし「あきらめ・投げ出し」してしまう心こそが「弱い」と考えるコーチにとっては、相性の悪い相手に対しても気持ちを切らさず立ち向かう皆はとって「強い」子たちでした。今は「1体1でも負けない力」という土台を作る時。その土台の上にパスなどのコンビネーションプレイが身についたらと考えたらワクワクしませんか？

但し浮き球に対するビビりはそろそろ無くそうね(笑)

by 谷口コーチ

羨ましいよ！素敵だよ！

6月5日(土)に南の3期生やその追っかけをしていた矢上の教え子達の同窓会が八王子市内でありました。教え子で南OBの中西隆志君(金曜午後練担当の中西コーチの弟)も出席を予定していたのですが、キャンセルしてきました。アフリカへ行くから来れないんだろうなと私は思いました。



やはり、その中西君はワールドカップ、日本対カメルーン戦のスタンドにいました。中西コーチから「隆志はカメルーン戦を観に行くと言っていました。」と聞いていたので、スタンドが写ると目を凝らしていたのです。

いました！！3～4秒間描写されていました。試合後も写っていました。日の丸を付けた派手な兜をかぶり武者の格好していました。四角い顔の下半分は濃いひげに覆われ、見事な武者ぶりでした。

フランスワールドカップの時もスタンドで応援し、武者の格好で応援する姿がアメリカのタイム誌の表紙に大写真で掲載されたこともあります。数年前にみなみ野の結婚式場で挙式し、可愛い女の子のお父さんになっている隆志君は会社を休み、30万円以上の大枚をはたいて、こだわりのアフリカ行きです。日本サッカーの歴史的な場面に立ち会えた隆志君、ちょっぴり羨ましく、生き方が素敵だなと感じていました。0泊4日の強行軍、無事を祈りながら小学生時代の隆司君を思い浮かべていました。

矢上も元気だったら、4年後のワールドカップブラジル大会には行きたいと思っています。



嬉しいこともあり、心配なこともあり

30数年も教育現場にいるとたくさんの先生方と知り合いになります。時々、お話をうかがうこともあるのですが、

「南の〇〇君、この頃GAMBAっていますよ」

等と言われると、とっても嬉しくなります。…やんちゃだったあの子が成長してくれたんだな…と思ったりするのです。

でも、反対もあります。よくあることですが、学年が変わって新しい先生に馴染めず、つい、思ってもいないことを言うってしまうこともあるようです。そんなお話を聴くと、少し心配になります。大丈夫かな？優しい“人”しているかな？